



# 3月8日は国際女性デー

3月8日は「国際女性デー」。1910年にヨーロッパ、ロシア、アメリカの女性を中心となって「パンと権利と平和」を求めていっせいに立ち上がった日です。2022年2月にロシアがウクライナに侵攻してもう2年が経ちました。子どもを含む多くの市民が殺されました。加えて2023年10月には、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への無差別攻撃が始まりました。戦時下では子ども、女性が中心に犠牲となり、全ての人権は守られません。日本が新たな戦前にならないよう、平和な社会を求めて立ち上がった女性たちの闘いに学び、未来の女性たちにその闘いを引き継いでいきましょう！そして、「平和な社会を」の声をあげましょう！

## 4月に施行せまる「困難を抱える女性支援法」

2024年4月から施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」。その特徴は①自治体の努力義務が定められたこと（支援のための基本計画を作ること）②民間との協働

（市民団体とも協力）が位置付けられていることです。これまで日本の女性政策は売春防止法を根拠とした婦人保護事業しかありませんでした。理念法とはいえようやく法整備された意義は大きいと言えます。

焦点は性別に起因する差別や困難をなくすことです。多くの女性にとって、妊娠・出産・育児というライフステージの変化は不可避。それを「ハンディ」にしないための社会的な仕組みが必要です。共働きでも家事労働や介護などのケア労働が女性の負担になっており、女性個人では解決できない社会の差別構造や固定的な性別役割分担意識が根強く存在しています。その結果、女性の賃金が低く抑えられ年金にも跳ね返り高齢期の女性の貧困につながっています。差別や偏見をなくすことは、全ての人の生きやすさにつながるはずです。



## 防衛省より防災省を、そして原発は廃炉に

2024年は能登半島地震と羽田空港での航空機衝突事故という、何とも重苦しい年明けとなりました。今回の地震では富山も「震度5強」というこれ迄経験したことのない地震により、多くの被害がでました。阪神・淡路大震災から29年、東日本大震災、熊本地震、そして能登半島地震と、地震・災害列島と言われる日本で、あまりにも対策が進まないのはなぜでしょうか。火山や地震の被害が多いイタリアでは人権を守れる体制が整備され、避難所での雑魚寝などは考えられないとのこと。2003年に珠洲原発の建設が中止されていたことに加え、志賀原発が運転停止中だったことは何よりの幸いでした。地震大国の日本では原発利用そのものがあり得ないことです。軍事費が増大する一方、防災予算は毎年減り続けています。いつ起きるともわからない災害危機への対応を優先すべきです。人々の命を守るには、防衛省ではなく防災省こそ必要ではないでしょうか。

## 八の日行動

日本は1941年12月8日、第2次世界大戦に突入しました。敗戦後、この日を「反戦・平和の日」として、街頭で宣伝活動をしています。3月8日（平和・国際女性デー）、8月8日（広島・長崎の被爆・敗戦）と年3回行っています。

## 戦争への道を許さない富山女の連絡会

富山県平和運動センター・I女性会議富山県本部  
富山市奥田新町8-1 ボルアートとやま10階 TEL=076-431-8756  
[2024年 3月 8日]